

NEWSLETTER TU・NA・GA・RU

2024.3
No.03

京都大学業務支援室

人・仕事・社会 障害者雇用で「つながる」を実現する

特集：業務支援室の室員にとって「働くとはなにか？」

働くとは・・・

- ・職場の皆さんと協力をして仕事をする
- ・障害があるからこそ、出来る仕事がある
- ・逆に障害の特性上、出来ない仕事もあるという事
- ・無理だなあって思う事も頑張ってみる事。わからない事はすぐ相談!!!
- ・時間とお金を大切にする(タイムイズマネー)

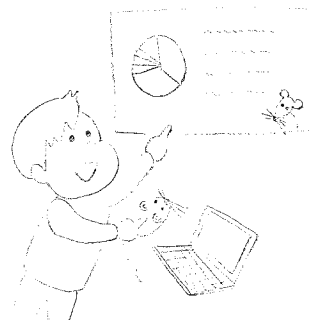


室員：O.K

特集：業務支援室の室員にとって「働くとはなにか？」

業務支援室で働くこと 室員 K.A

- ▶ 昨年6月から働き始めて10か月近くになります。病院で3日、大学で2日作業をしています。私はあまり就労経験は無いので月～金、9:00～16:00で働くのはたいへんです
- ▶ しかししっかり給与をもらっているのでやりがいがあります。1か月働いて給与をもらった時はがんばってよかったと思います。金曜日の仕事が終わるとホッとします
- ▶ 働くということはそういう気持ちになることだと思います
- ▶ わからないこともいろいろありますが他の室員の方とがんばりたいです。



働くとは 室員 M.M



- お給料(お金)が発生している。
- 分からないことはすぐに聞きながらも、自分で何をしたらいいのかを考える。
- たくさんの年齢幅の方と接する。
- 色んな年齢の方と働くようになって、世の中の事を知れるようになりました。
- 高校のころに比べて働くとなると大変さや、疲労感が、全然違います。
- 親のお金じゃなく、自分で稼いだお金で、遊びに行けるようになり、嬉しいです。

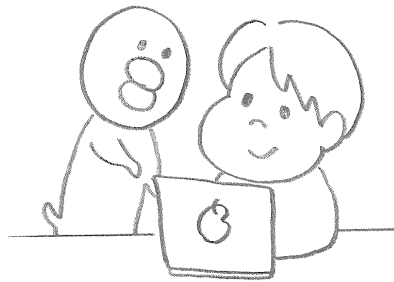
特集：業務支援室の室員にとって「働くとはなにか？」

働く事とは

- 70歳を超えても、働ける居場所があるのが嬉しい
- 働く事で、自分が生きて居ると感じられる
- 働く事で、休日をより楽しむ事ができる
- 仕事で体を動かすことで、認知症の予防に繋がっている



室員K.Y



働くことは

K.N.

大学と違って、仕事は学ぶことが必要になった、封入作業で数える時にチラシが何枚あるかってゆうのも確認をしないとイケないのでそこで数えるのも間違えて失敗はする。

納品をする時に苦手な部分はある苦手やけども仕事で納品が難しい所でもありますが頑張っている。

一年半の時はセロハンテープもうまく切れなかった、今はセロハンテープが封筒に貼れるようになった。

封筒にすばやくラベル貼りがうまくなったのは一年たってだんだんとラベルがまーすぐに貼れるようになった。

吉田南のハンコを押しの時に紙を引いて作業を行っている。

初めての新しいバーコードの読み取りもうまくバーコードで難しいのにうまく読めて良かったと思ってまたバーコードをまたあつたら一回バーコードの読み取りを頑張りたい。

勉強会で仕事にあたって漢字、時計とか必要なのでこれからも学んでいきたい、生活で必要なので頑張っていきたい。

カッターが中々うまく使えなかった今は仕事でカッターを使ってたらだんだんとなれるようになった。

特集：業務支援室の室員にとって「働くとはなにか？」

働く事は 室員A.M.

私は、作業所にいた時に自分は、何も出来ないと思ってました。

業務支援室に就職して色々な事が出来る事を知りました。

パソコンが苦手なと思ってました。

けど、パソコンの仕事をしてる間に出来る事が分かりました。

嬉しかったです。

作業所の工賃は、1時間200円・1ヶ月2万円です。

業務支援室の給料は、1時間1050円・1ヶ月10万です。

お給料が増えて出来る事は、姪っ子・甥っ子にお年玉があげられるようになりました。

自分でケーキを買えるようになりました。

一人で出かけて自分の欲しい物を買えるようになりました。

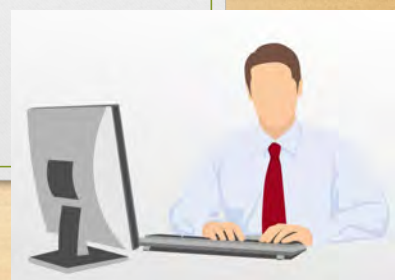
一番嬉しかった事はスマホが持てるようになったことです。



室員 K.K

★働くとはどんなことか★

- ・指示された範囲+α可能な範囲で個人の判断と機転が利くかどうか！
- ・依頼された仕事に対して**個人の責務を全うする！**
- ・コミュニケーションが大切！



特集：業務支援室の室員にとって「働くとはなにか？」

なぜ働くのか

もし働かなくて済むほどお金があつたら働かなくていいのか？

「社会人」として生きていくためには……

衣・食・住

+

コミュニケーション力
生活リズム
社会通念・一般常識
思いやり・道徳
積極性・自主性

職場は学校とは異なる「生きる力」を学べる場

室員 O.G

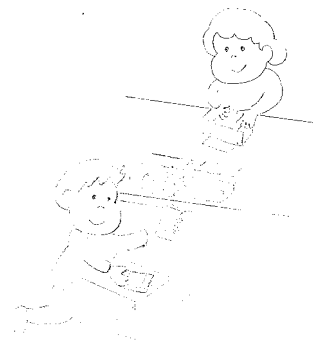


イラスト Y.H.

室員 U.S

「働く」とはどんなことか？

失敗しても【次に】…

- ・ミスを引きずらない。
- ・改善に繋げていく。

働くスキルを身に着けること

- ・得意な事を更に伸ばしていくこと。
- ・苦手なことを得意に変えていくこと。



特集：業務支援室の室員にとって「働くとはなにか？」

自分にとって働く事とは 室員T.H

- 自分の行っている業務に責任が付いている事を常に意識する
- 自分のミスが職場全体の業務効率の悪化や、評価の低下に繋がる事を自覚しておく
- わからない事、自分の障害特性上難しい事があった場合は、すぐに相談する
- 業務の速度と正確性を上げられるように工夫する事を意識する
- 障害に甘えずに、少しずつ成長できるように常に努力する



「皆さんにとって、『働くとは…』どのようなことですか？」

業務支援室では、業務支援室と各部署の障害者雇用で働く職員に「働き続けるために大切なこと」として、二つのことを意識してもらっています。一つは障害の自己理解、もう一つは就労意欲です。「就労意欲」とは、働きたいと思う気持ちです。これは人によって様々で、「スキルアップしたい」、「仕事を通じてやりがいを感じたい」、「仕事で出会いを広めたい」、という人もいれば、「給料で好きなものを自由に買えるようになった」、「給料で家族にプレゼントをする」、「仕事を通じて社会貢献したい」という人もいるでしょう。働くことに前向きな目標をもって、積極的に取り組む気持ちが「就労意欲」だと言えます。

障害の困難さを抱えながらの就労は想像以上に大変です。障害のある職員はその状況の中でも働きたい気持ちに向き合い、社会人としての自立と成長を果たしています。障害のある職員の働く姿を見て、同じ職場で共に働く職員もまた真摯な気持ちで働くことに向き合いたいと思わされます。このことが何よりも障害のある職員の力になり、協働の職場の醸成に繋がっています。
(業務支援室副室長 濱野康子)

室員 NEWS

今年度、業務支援室から部局採用となった元室員からのメッセージ

(京都大学で) 仕事をしていくうえで大変だなと思ったのが、コミュニケーションと協調性です。仕事は1人で作業して1人で完結することは絶対がないので、どうしても他の人と関わってくる場合があります。1人ではなくみんなで仕事をしていくという意識を持っています。また障害特性をしっかりと具体的に説明すること、説明できるように自分で自分をしっかり理解することも大切です。私にとって(合理的)配慮はあくまでお守りで、困った時にこれがあるから今頑張ろうと思えるようなものです。あまり(合理的)配慮を当てにせず、周りの職員に色々尋ねたり質問したり自分が対応できることをしっかりとっておくと、長い目でみると自分の役に立ちます。

(K.A. 学術研究展開センター 事務補佐員)

私が入社して約2年、短い間でしたが色々な事を学びました。入社時は他の室員さんは年下ばかりで自分が溶け込めるか凄く心配でしたが、皆さんが気さくだったので直ぐに溶け込むことが出来ました。大変な仕事やきつい仕事もありましたが、皆で明るく元気に乗り切りました。新しい室員が入ってきたら、今までの様に優しく包んであげてください。私は新たな道を踏み出すことを決めました。これからは業務支援室の一員では無くなりますが、皆さんの近くにいます。皆さんが新しい一歩を踏み出すことを願っています

(U.Y. エネルギー科学研究科 労務補佐員)

京都大学業務支援室の役割 2 障害者雇用の促進

業務支援室は学内各部署の障害者雇用に関する相談窓口として、採用から定着までのサポートを担当しています。職員への障害者雇用レクチャー、採用イベント開催、支援機関連携など、幅広く対応しています。

● 業務体験&面談会の実施

本学主催の採用マッチングイベント。学内の採用予定部署と、当室と連携関係にある就労支援機関に通所している障害のある求職者をマッチングしています。イベント当日には、事務ワークなどの業務体験と部署の人事担当者との面談を行います。マッチングが成立した部署と障害のある求職者が職場実習を経て、双方の協議により、雇用・就労の判断をします。2019年以降、20名を超える方がこの採用方式で雇用され、様々な部署で職員として活躍しています。

● 障害者合同企業説明会（面接会）に参加

年2回、京都労働局とハローワーク等の主催で開催されている障害のある求職者向け「障害者合同企業説明会（旧面接会）」に参加しています。本学全体の障害者雇用窓口として、障害のある求職者への本学の説明及びその後の採用過程をサポートしています。

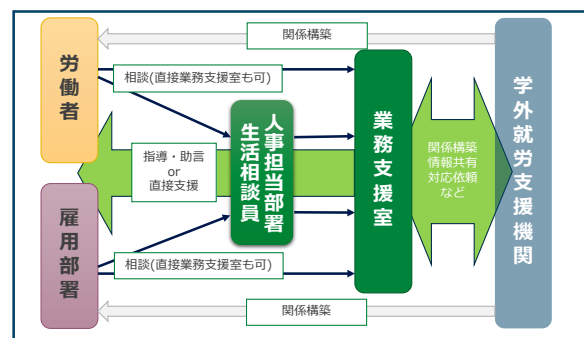


部局採用

採用部署の一般職員と同じ職場で、事務補助を中心とした仕事に従事。

● 各部署で働く障害者雇用職員と雇用部署の双方から、職場での課題や不安解消など、あらゆる相談に随時対応しています。また、採用から一定期間は就労支援機関の訪問面談に同席して、就労定着の安定を図っています。相談は職務上の課題について、障害特性の理解と合理的配慮の調整が可能な範囲で行っています。仕事以外の生活に関することは、支援機関に対応を求めます。

● 業務支援室では、「仕事・働き続けること」を念頭に置き、「支援」ではなく、「配慮」の観点で定着サポートを行います。本当に必要な「合理的配慮」を求め、雇用側と具体的な協議をすることにより、安心して長く働くことができます。



支援

福祉的就労
支援を受けて
働く

支援者が、障害で困ったことが起こらないように本人の手助けを常にする

福祉サービス・支援

配慮

障害者雇用
配慮を求めて
働く

本人が、仕事をする上で起こった困りごとを職場に申し出て、相談する

合理的配慮

≠

学外の動き 障害者雇用企業向けセミナー「精神障害・発達障害のある従業員の雇用管理の実際」レポート

先日、障害者就業・生活支援センターと京都障害者雇用企業サポートセンター主催のセミナー「精神障害・発達障害のある従業員の雇用管理の実際」に参加しました。セミナーでは、京都市と出雲市の企業において障害者雇用枠で採用されたそれぞれ1名から、入社の際や働くうえで良かったこと、苦労したことについて発表がありました。どちらの事例でも一つ一つの壁を時間をかけて何とか乗り越えて来られたようですが、発表者に共通していたことは、自身の障害特性をオープンにすることで初めて配慮が得られたこと、仕事や職場に対する不安な点があれば相談できる担当者が居ること、その不安な点を解消できる知恵を絞った提案が雇用側からなされたことでした。

雇用側は、障害者雇用というどこかハードルが高いような印象を持ってしまいがちですが、決してそうではなく、一般雇用者を含めて大切なことは、働くその人をよく知ろうとすること、その人の能力や特性に応じて力が発揮しやすい環境を整えることが重要です。障害のある人の能力や特性を把握するには少し時間がかかるかも知れませんが、何か困ったり問題を感じた際に諦めたり放置したりせず、丁寧な聞き取り等を行うことで、各自がもともと持っている働くことに対する意欲の芽を育てていける、そんな環境作りの大切さを学んだセミナーでした。（指導担当 東 敏樹）

京都大学業務支援室の役割 2 障害者雇用の促進

定着サポート：ランチタイム交流会

業務支援室では合理的配慮の一環として、京都大学の様々な部署で働く障害者雇用職員の交流を目的としたランチタイム交流会を月1回のペースで開催しています。

「障害者雇用枠で採用いただいている人は、各人の性格にもよるでしょうが、業務量や内容に配慮いただいていることに何かしらの『後ろめたさ』を感じているとともに、職場でどこか『お客さんの』な受け止め方をされていると感じていることがあるのではないのでしょうか。」これは障害者雇用の方から届いたメールの一文です。障害者雇用で働く方々の多くは、どこかで疎外感や孤独を感じています。特に何かあったわけでは無く、「自分だけが障害者雇用」であるという、何となくの引け目から生じているのだとメールの内容から見えてきます。

現状、障害者雇用者は各掛に1名配置が多く、「周りの方は忙しくされていて、ちょっとした相談や会話をするタイミングが分からない（できない）」という声をよく耳にしていました。そこで、2023年10月より、昼休憩を活用したランチタイム交流会を試験的に開催してみたところ、2月21日に第5回が終了しましたが、初回より多くの方に参加いただき予想以上の手ごたえを感じているところです。障害者雇用ならではの悩み、体調の事などをざっくばらんに会話されており、終始笑い声が絶えない時間となっています。

また、本学の障害者雇用の現状や課題について当事者目線で率直な意見が交わされることもあり、今後はそうした意見を集約し、よりよい雇用や定着に繋がられるような集いにしたいと考えています。（部局相談・採用担当 井上 麻希）

参加者の声

ランチタイム交流会を開催いただいて本当にありがとうございます。当事者間でしか理解しえないことを共感・情報共有ができることで、みんなで肯定的に前進する機会をいただいていることに本当に感謝します。当事者間のピア・ミーティング（カウンセリング）は効果絶大だと思います。

ランチタイム交流会では他部局で働いておられる方の話を聞いたり、「この悩みって私だけ？」という事を相談したり、皆、意外にあるあるだったり…気持ちのリフレッシュになり、毎月楽しみにしております。

普段は一人で昼食を食べているのですが、ランチタイム交流会では楽しく会話ができ、いつもと違うお昼の過ごし方ができています。

- ・同じように部局で働く人たちと悩みが共有できて勇気づけられました。
- ・皆さんと出会うことができてとても幸せです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・自分と同じ立場の方と定期的に交流させていただき、よりリフレッシュの機会となっています。

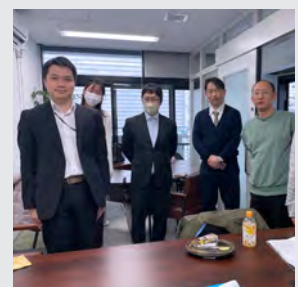
交流会の様子



第1回（10月25日）



第3回（12月20日）



第5回（2月21日）

12月25日には桂地区（工学研究科）でも初のランチタイム交流会を開催しました。桂地区で働く障害者雇用職員4名が集まり、歓談しました。

編集後記

第3号を発行することが出来ました。業務支援室には毎号載せたい事が沢山ありますが、スペースは有限なのでいつも悩みます。まずは発行を続けて、今後は気軽に読めるコラムや各部局で働く障害者雇用職員の体験記なども掲載していきたいです。（広報担当 S）

OPERATIONS SUPPORT SERVICES OFFICE
by PERSONS WITH DISABILITY

京都大学業務支援室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL：075-753-2063 FAX：075-753-2069
<https://gyoumu-shien.adm.kyoto-u.ac.jp>

